

生涯学習大沼令和7年度第2回の教養講座を開催しました

令和7年7月18日(金)日立市市政出前講座を33名の入講生と聴講しました。

演題『安全』で『安定』した上下水道サービスの提供のために

講師：日立市企業局上下水道部の4名の方が来場し講演していただいた。

水道課 管路整備推進室 室長：額賀 健 様、主事：高橋 佳比古 様

下水道課 副参事：永田 淳一 様、主幹：関根 晋也 様

講演は、水道と下水道の2部構成で行われた。

水道課は、日立市の水道事業の歴史や概要と現状の業務内容の紹介をしていただいた。

日立市の水道事業は、日立製作所が社員のために良質な水の供給を目的に日立水道株式会社を設立し昭和16年に給水を開始、その後日立市が買収し昭和23年より水道事業を開始した。

日立市は主に久慈川と十王川より取水し、市内を13系統に分けて給水している。

この地区(大沼学区)は大沼配水池から給水している。

業務内容は配管からの漏洩対策について紹介いただいた。

漏洩発生の要因として経年劣化や埋設箇所環境による環境劣化や点検が困難な場所の点検性の悪さなどのため、老朽化が進行するとのこと。

対応として、人工衛星で取得したデータをAIで解析したり、人的手段で得た結果を基に劣化や損傷が進む前に適切な維持管理や修繕を行い施設の長寿命化を計っているとのこと。

※県内水道料金ランキング(令和5年)：日立市が1番少ない(口径20mm、20m³の1ヶ月料金)

下水道課は、下水道の役割や処理水の状況、八潮市の下水道事故の要因と現状の業務について紹介いただいた。(下水道事業は昭和44年に中央処理区域の事業に着手した)

役割は①公衆衛生の向上②下水道水を処理して環境を守る③街を浸水から守るとのこと。

日立は、中央処理区域、北部処理区域、南部処理区域(那珂久慈流域)の3つの事業体に分かれており、大沼地区は南部に属し処理水は那珂久慈浄化センターへ送られ海へ流している。

下水道の普及率は茨城県65.4%、全国平均81.4%に対し日立市98.3%と高い普及率とのこと。

八潮市の事故の要因は、処理量が多いのと曲線部で地下水位が高く土質が軟弱だったこと。

下水道の維持管理として台帳システムによる下水管路の管理やテレビカメラ等による調査をし快適な生活環境と安全で安心な暮らしを実現し、下水道に起因する道路陥没等の事故を防いでいるとのこと。最後に、テレビカメラによる下水管内の調査点検の映像を紹介いただいた。

聴講者も、講演を聴き上下水道の維持管理の大変さを実感したことと思います。

生涯学習部 尾崎重美

